

平成25年度事業報告書

1. 事業の概要

最近の農業情勢は、農業従事者の減少や高齢化の進行などによる農業労働力の低下、耕作放棄地の増加など、多くの課題を抱えている。

こうした情勢の中、三原村農業公社も今年で15年目を終え、三原村農業の発展に寄与する事を目標に各事業に取り組みました。

基幹品目であるゆず栽培については、引き続き高知県産業振興推進ふるさと雇用事業を活用し、合計約17、7haの植栽を終え、肥培管理に努めています。

ゆず商品の販売・PR活動についても、高知県緊急雇用創出臨時特例基金事業を活用し、販路拡大やイベント参加を行い、順調に売り上げを伸ばす事ができました。

また、起業支援型地域雇用創造事業についても、加工場の計画、ゆず玉販売、新商品の開発等を行い、今後の円滑な運営に向けた取り組みを行いました。

以下主な事業について項目別に概要を報告します。

公益目的事業

(1) 農地利用集積円滑化事業

高齢化による担い手不足や農業情勢の変化に伴い、利用者の増加が見込まれるため、ゆずの植栽を中心とした事業の取り組みについて集積を中心に計画・検討を行った。

(2) 新規就農者育成研修事業

昨年より引き続き、2名の研修生がブロッコリー、オクラ、ユズの栽培に取り組みました。今後も新規就農者の確保を図り、試験品種栽培・作業受託による農業技術の修得を図っていきます。

(3) 新規作物等栽培実証事業

研修ハウスにおいては、引き続きブロッコリーの育苗を中心に取り組み、村内のブロッコリー栽培農家は、冬ブロッコリー7名(2.1ha)、春ブロッコリー13名(4.0ha)となりました。

公社の施設をリースしている「有限会社 四万十みはら菜園」についても、第1・第2温室共に順調に収量をあげる事ができ、黒字経営となった。

(4) 農作業受託支援事業

① 播種センター利用事業

早稲の播種作業を3月上旬から、中稲を4・5月に行い、村内外合わせて115戸の方々に利用いただき、約27,000枚の実績を上げることが出来ました。

② 農業機械活用事業

大型乗用トラクター等を活用し、農地の保全に務めると共に受託作業にも取り組む事ができた。

収益目的事業

(1) 加工品販売促進事業

県内外を問わずイベント等への参加や近隣地域の直販所・販売店へ積極的に営業活動を行い、ゆず加工品の販路拡大を行った。平成25年度の販売額としては、約7,000,000円となり加工用ゆずの消費と三原村のPRに繋がっている。

(2) 加工施設の運営と販売に関する事業

J A高知はたと売買契約を締結し、ゆず加工用酢玉を販売する事ができた。
(平成25年度実績 104.8 t)

また、ゆず加工施設計画の立案や検討、新商品の開発を行い、営業活動を通じて、今後見込まれる収穫量増加に対する対策を講じる事ができた。